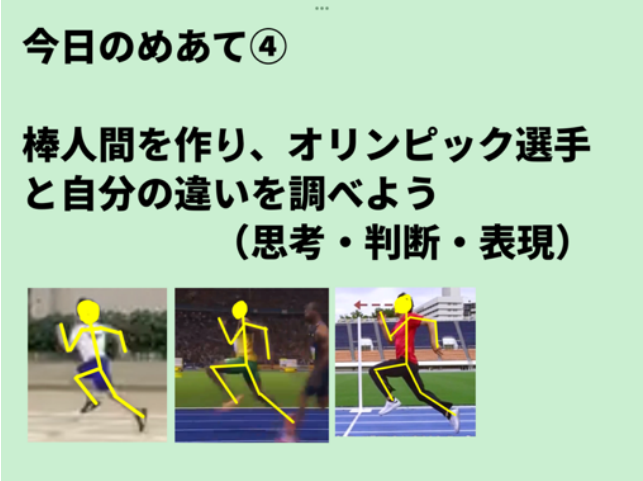
棒人間でオリンピック選手と自分の走りを比べてみました

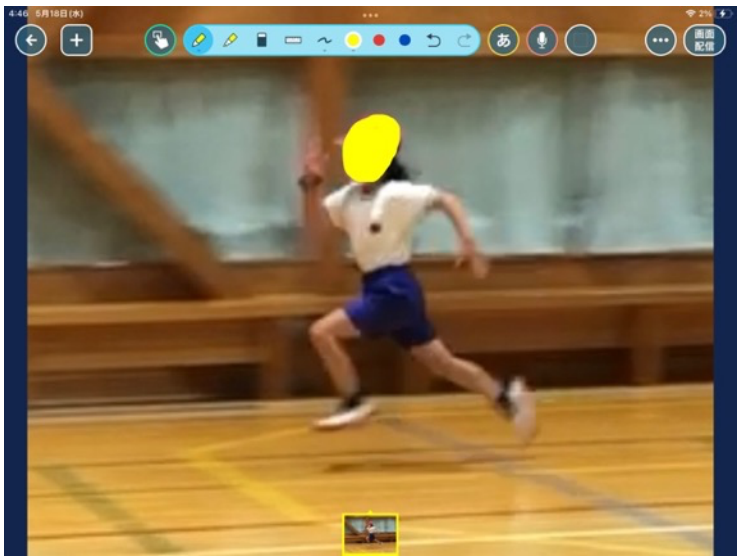
日田市立高瀬小学校　岩﨑　敬

本校の授業支援ツールはロイロノートです。

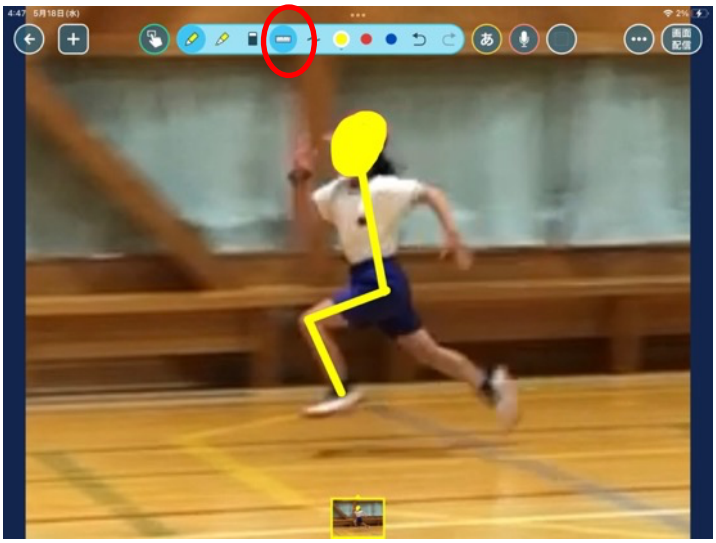


体育館をダッシュゾーンと撮影ゾーンに分けました。ペアや３人組で自分のランニングフォームを撮りました。

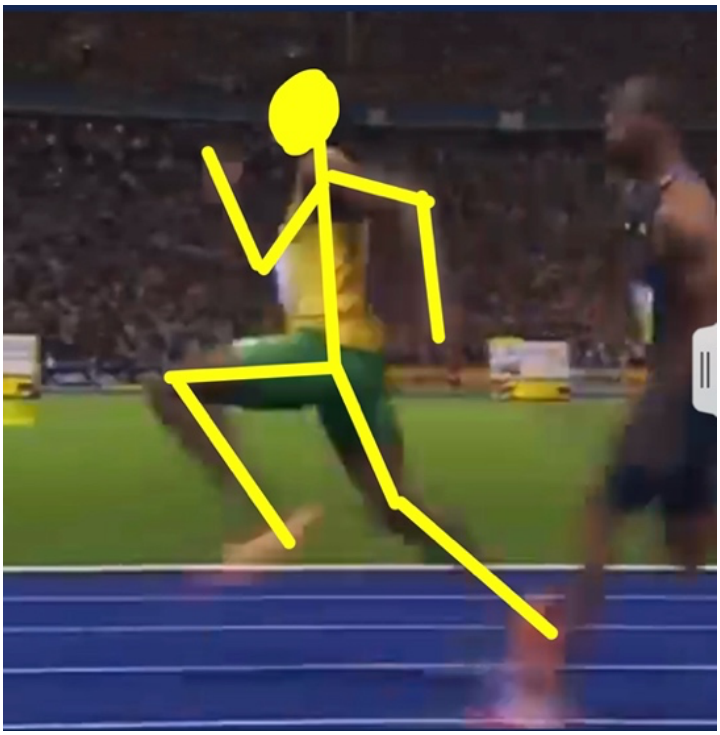
動画の中で１番腕が振れているとことでスクリーンショットにし，写真にします。動画のままでも構いません。



顔だけフリーハンドで塗りつぶします。わかりやすいように黄色に色指定しました。



定規機能を使い，首から腿の付け根まで線を下ろします。この線をお尻まで下ろしてしまうと足が高く上がっていると錯覚してしまいます。



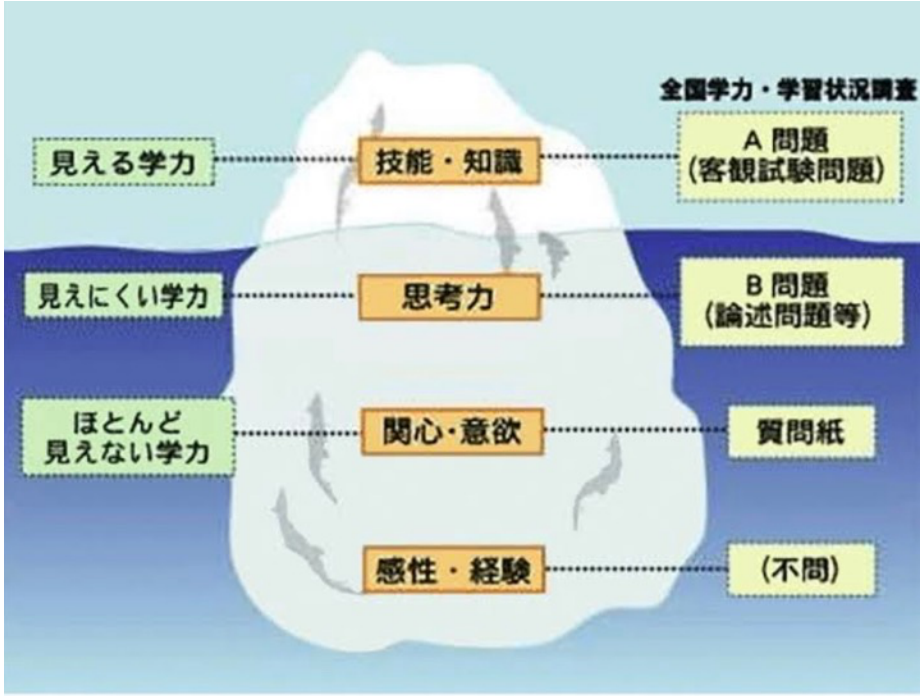
ウサイン・ボルトが世界新記録を出した時の動画から静止画を作って反転（体育館のダッシュした方向の関係で）させ，棒人間に表した画像を子どもたちに送っておきます。

子どもたちには自分のランニングフォームと比較したものを見ての気付きを提出させました。ピンク囲みは満足した子，薄黄色囲みはまあまあといった感想の子です。

授業のラスト 10 分はコーンに向かって全力 50m 走です。録画の後記録を計測しました。

計測してびっくりしましたが,

７割近くの子どもたちが自己記録を更新していました



「確かな学力」の氷山モデル（梶田叡一）

（出典：『<新しい能力>と学習評価の枠組み』松下佳代著）

「わかる」「やってみたい」とかいう知識や関心・意欲は，・「速く走れる」という技能と一体なんだと再確認した授業になりました。梶田叡一先生の「確かな学力」の氷山モデルの図のことも一緒に思い出しました。